

## 心も思いも一つ

使徒言行録 4:32-35

信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた。使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、皆、人々から非常に好意を持たれていた。信者の中には、一人も貧しい人がいなかった。土地や家を持っている人が皆、それを売っては代金を持ち寄り、使徒たちの足もとに置き、その金は必要に応じて、おのおのに分配されたからである。

### 説教

今日の第一朗読までの使徒言行録の内容を箇条書きにしてみます。

1. 聖霊が降臨し (2 : 1-13) 力をえたペテロは民衆に語りかけ、その日のうちに3000人が仲間に加わりました。

2. そして始まったばかりの教会活動の第一の要約が記されています。

**彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業とするしが行われていたのである。信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。2:42-47**

3. 歩行不能者を治し (3 : 1-10) ペテロは神殿広場で民衆に呼びかけます。(3 : 11-26)

4. ペテロとヨハネは神殿権力に呼び出され聴取を受けます。(4 : 1-22)

5. 釈放されたペテロたちと信者は聖霊に満たされひとつになります。(4 : 23-31)

6. 第二の要約として教会による財産の共有 (4:32-35) きょうの朗読箇所が記されます。

7.バルナバによる財産共有の規範が示され（4：26-37）悪い例としてアナニアとサフィラの顛末が記されます。（5：1-10）「教会全体とこれを聞いた人は皆、非常に恐れた」5:11 と締めくくります。

教会の始まりは聖霊に満たされた人々の集まりで、癒しの奇跡は互いの中で起こり、自分の財産は教会の共有財産となって貧しい人はひとりもなく、みんな幸せに暮らし始めます。しかし、外部や内部に全く問題がないかといえはひと縄ではくくれない事情が記録されています。

わたしは、きょうの聖書箇所を読んでいて「政治と文学論争」を思い出しました。日本の終戦後にあった論争のひとつです。これを使徒言行録になぞらえれば、聖霊に満たされた人々が財産を共有する共同体を構成することは是か非か、政治と宗教 —原始共産主義と聖霊に満たされた人々の信仰— を対立させる見方、考え方になるのかもしれませんが。使徒言行録で提示された問題は現在も未解決のままです。キリスト教も政治と宗教は別々という派閥がいまのところ主流派になっていて、この問題は棚上げされたままになっています。実際にいまの日本で使徒言行録二章（2:42-47参照）のような教会はカルト集団と呼ばれ、否定されるでしょう。狂信的な集団にしる慈善的な集団にしる対立の中から新たな展望が望めるでしょうか。

聖書に耳を傾ければ、復活の主の第一声は「あなたがたに平和があるように」（ヨハネ20：19）でした。主の平和を祈り願うことがわたしたちの信仰となり、その祈りがはるか遠くまで届きますように。

-----